

阪神・淡路大震災レポート 2

阪神・淡路大震災調査研究特別委員会報告

委員長 丹 羽 雅 子

阪神・淡路大震災に関する関西支部（被災地域） 会員アンケート調査報告〔その2〕

—自由記述式による—

阪神・淡路大震災調査研究特別委員会準備委員会
委員 今井 範子, 野田 隆

調査内容はその1・表1に示したが、その2では、残りの調査内容すべてを報告する。調査の概要、回答者の概要については、その1を参照されたい。

1. 地震発生時の様子

(1) 地震発生時の行為と状況

発生時刻が真冬の午前5時46分であったため、「就寝中」が7割強、「布団の中で起きていた」が1割強であり、多くの者が寝室内で地震を体験したことが、この地震の特徴である（表1）。揺れの様子、ものが飛び、散乱した様子、からだ自体が飛ばされた様子、タンスや本棚などが身体の上に倒れてきたり、その場で荷物にうずもれた様子など、その時の状況が種々記入されていたが、紙面の関係上割愛する。

(2) とっさの行動（表2）

全ての回答者が目を覚まし、何らかの行動をとっている。最も多いのが「布団の中にもぐり込む」という動作である。就寝中に地震が起こったことから、即座に身を守る行動として多くの者がとった。厚い綿布団などは、襲い被ってきたものから身を守る役目を、少なからず果たした。夏なら違った状況になっていたと思われる。つぎに、大声で「家族の無事を確認」「揺れに身をまかす」が多く、あまりに大きな揺れのため、その場から動ける状況ではなかったことがわかる。

(3) 少し落ちついてからの行動（表3）

停電したため懐中電灯を探す者が、被害の大きかった兵庫の2地域にとくに多い。所定のところになく、どこかに飛ばされたりうずもれたからである。ラジオを探した者も存在し、非常時に分かりやすいこれらの常備位置と置き方に、注意が必要なのがわかる。そのまま明るくなるのを待った者も少なくない。「自宅の被害状況の確認」「家族の安否の確認」「近隣との声のかけ合い」といった確認行為を多くの者がしている。電話は直後は通じたが、すぐ不通になっている。外に出た者は、被害が甚大であった【兵庫A】で多く、避難と状況確認の行動である。「片付け」は、足の踏み場もないほど散乱したもの、ガラスの破片などを片付けたもので、とりあえず通路確保のために必要であった。なお、素足では危なくて歩けず、履物が必要であった。身近にあったスリッパを使用した人もいたが、それもなかなか見当たらない状況が多かった。非常時グッズに、運動靴のような活動しやすい履物は必要なものである。兵庫では、停電のため、さらにテレビ自体が転倒したり壊れたため、テレビをつけた者は殆どなくラジオ（電池式）をつけている。【兵庫A】では、ラジオをつけることができた者も少なく、どこで何が起こったかの情報が極めて入りにくかった様子がわかる。【兵庫B】では、【兵庫A】と同様、テレビをつけるこ

表 1. 地震発生時の行為

1. 就寝中	116(73. 4)
2. 床の中で起きていた	20(12. 7)
3. 食事準備, 食事中	3(1. 9)
4. 身支度, 仕事中etc.	15(9. 5)
5. 自宅外 (出勤途中)	2(1. 3)
無回答	2(1. 3)
計(%)	158(100. 0)

兵庫	大阪
兵庫A: 神戸市 須磨区11 長田区1 兵庫区1 中央区2 灘区6 東灘区9 芦屋市7 西宮市18	兵庫B: 神戸市 西區 4 垂水区 4 北区 3 明石市 2 三木市 2 宝塚市 8 伊丹市 2 川西市 3 不明 1
大阪府下: 池田市 8 豊中市16 箕面市 8 吹田市 7 その他 1	大阪市: 東淀川区 福島区 淀川区 北区 各4 西区 都島区 中央区 城東区 生野区 旭区 浪速区 天王寺区 東住吉区 住吉区 住之江区 各2 各1

図 1. 地域分類

とができた者は殆どいないが、ラジオをつけた者はかなり多い。大阪の2地域では、テレビとラジオをつけている。早く情報を得ようとする行動が目立つ。「水の確保」は、集合住宅では給水槽に残っている水をすぐに浴槽に貯めたり、まだ出る水道水を浴槽やポリタンク、やかんなどに汲み置くことをしている。断水を予期しての行動である。

2. 地震当日 (1/17) と地震翌日 (1/18) の行動

回答者とその家族も含めて、どのように過ごしたかをたずねた。

(1) 1月17日 (当日) の行動

図2に示すように、被害大地域の【兵庫A】と他の地域では、様子がかなり異なる。【兵庫A】では、「救助活動」「避難所に避難」「親戚・知人の所に避難」という行動が存在する。また、転倒した家具や散乱したものの「片付け」が半数を超える (倒壊家屋から貴重品や衣類を取り出す作業を含む)。「安否の確認 (電話による)」は、他地域より少ない。【兵庫B】と【大阪府下】では、「ラジオ・テレビに釘付け」「片付け」「安否確認・連絡」が記入の多かった行動である。「安否の確認・連絡」は電話によるものであり、電話が通じなかったり、公衆電話を長時間待つという状況が多く記入されていた。地震後しばらくすると回線がパンクし、大阪、兵庫の電話は殆どつながらなかった。また、出勤して、あるいは自宅の電話から「職場や学生の安否を確認」する者が、一定の割合で見られた。【大阪市】では、「出勤」「出勤するが交通機関が不通のため引き返す」が半数を超える。

表 2. 地震発生時一とっさの行動

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市
1. 揺れに身をまかす	7(12. 7)	2(6. 9)	10(25. 0)	4(14. 3)
2. 布団の中にもぐり込む	29(52. 7)	11(37. 9)	13(32. 5)	17(60. 7)
3. 机の下, コタツにもぐり込む	1(1. 8)	2(6. 9)	1(2. 5)	0
4. 妻におおいかぶさる	0	2(6. 9)	1(2. 5)	1(3. 6)
5. 倒れないよう家具を支える	2(3. 6)	2(6. 9)	3(7. 5)	2(7. 1)
6. 懐中電灯を探す	2(3. 6)	2(6. 9)	0	0
7. 防災行為*	5(9. 1)	0	4(10. 0)	0
8. 家族の安否を確認**	10(18. 2)	7(24. 1)	4(10. 0)	1(3. 6)
9. その他***	3(5. 5)	8(27. 6)	6(15. 0)	4(14. 3)
無回答	2(3. 6)	0	1(2. 5)	1(3. 6)
計(%)	55(100. 0)	29(100. 0)	40(100. 0)	28(100. 0)

※: ガスを消す, ストープを消す, ドアを開けるなどの2次災害を防ぐ行為
 **: 大声で騒ぎを確認, etc.
 ***: ベッドや柱にしがみつく, 部屋から出る, タンスの下敷き, etc.

表 3. 地震発生時一少し落ちついてからの行動

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市
1. 明るくなるのを待つ	6(10. 9)	4(13. 8)	0	0
2. 懐中電灯を探す	13(23. 6)	4(13. 8)	1(2. 5)	2(7. 1)
3. 防災行為	4(7. 3)	6(20. 7)	5(12. 5)	5(17. 9)
4. 家族の安否を確認	9(16. 4)	5(17. 2)	6(15. 0)	7(25. 0)
5. 電話をかける	2(3. 6)	0	1(2. 5)	2(7. 1)
6. ラジオを探す	1(1. 8)	3(10. 3)	0	0
7. ラジオをつける	6(10. 9)	11(37. 9)	5(12. 5)	3(10. 7)
8. テレビをつける	0	1(3. 4)	11(27. 5)	7(25. 0)
9. 身支度, 服を着る	9(16. 4)	3(10. 3)	1(2. 5)	3(10. 7)
10. 外に出る	12(21. 8)	1(3. 4)	1(2. 5)	3(10. 7)
11. 近隣の声のかけ合い	7(12. 7)	0	2(5. 0)	1(3. 6)
12. 自宅の被害状況の確認	11(20. 0)	10(34. 5)	18(45. 0)	10(35. 7)
13. 水の確保	1(1. 8)	4(13. 8)	1(2. 5)	2(7. 1)
14. 片付け	9(16. 4)	5(17. 2)	10(25. 0)	3(10. 7)
15. 近くの避難所に避難	3(5. 5)	1(3. 4)	0	0
16. 出勤	3(5. 5)	0	1(2. 5)	1(3. 6)
17. その他	4(7. 3)	5(17. 2)	5(12. 5)	3(10. 7)
無回答	2(3. 6)	1(3. 4)	1(2. 5)	0
計(%)	55(100. 0)	29(100. 0)	40(100. 0)	28(100. 0)

(複数回答)

また、「水の確保」と「食料品などの買い出し」が兵庫の2地域に相対的に多く、常備していなかった様子が示されている。

(2) 1月18日 (翌日) の行動

翌日になると (図3), 兵庫の2地域では、「水の確保」と「食料品の買い出し」がさらに多くなる。水汲み (給水車, 井戸水, 湧き水などから), 水探しに明け暮れた, 長時間並んで確保した, スーパーでミネラルウォーターを求めたといった記入が多くみられた。食料品は, スーパーなどで求めているが, すでに店に食料品はなかったというケースが散見された。

【兵庫A】では, 「避難 (親族, 知人宅)」が前日よりも増えている。また, 「ラジオ・テレビの視聴」は, 当日も翌日もこの地域だけは少なく, 翌日の行動は, 避難, 水・食料の確保, 片付け, 出勤という, 主として4系統の行動に分類される。

全地域を通じて, 翌日になると「出勤」した者がかなり増える。引き続き, 「安否の確認」「片付け」が行われているが, 前日よりは少なくなる。

阪神・淡路大震災レポート

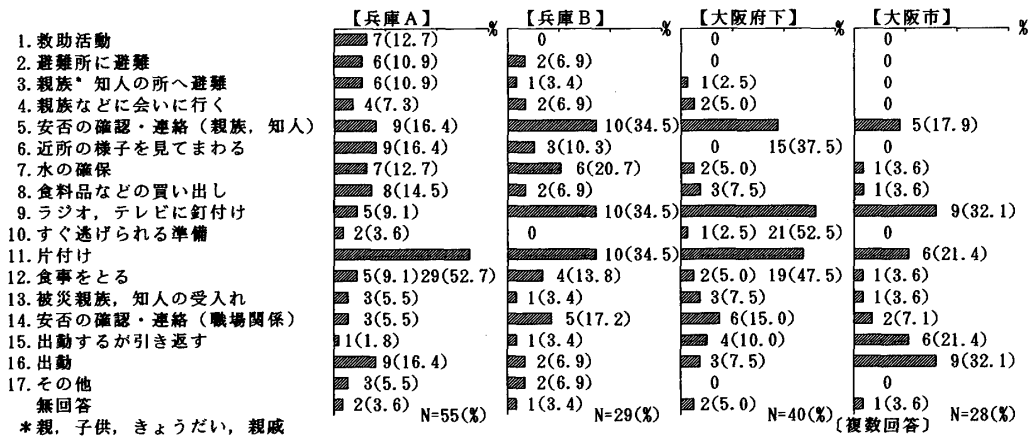


図2. 地震当日の行動

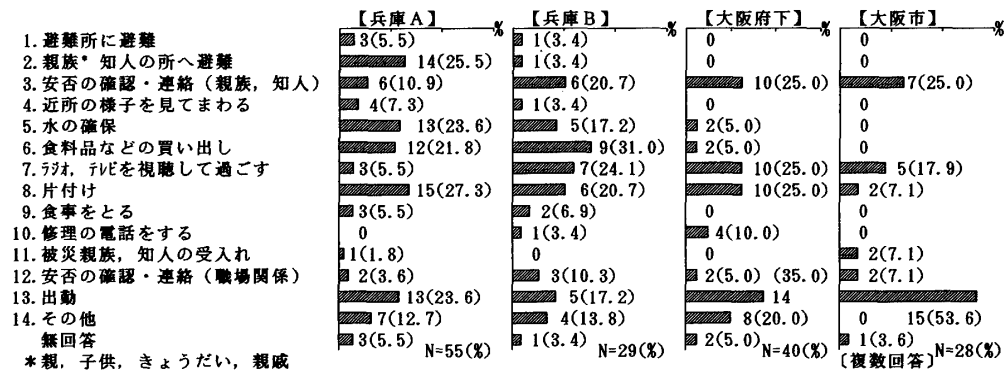


図3. 地震翌日の行動

3. 住宅の移動状況 (表4)

地震時に住んでいた住宅から、移動のあった者は、全体で2割強存在する(表4a)。「兵庫A」では5割が移動を経験している。移動回数は、2回、3回が中心であるが、なかには4,5回も存在する(表4b)。移動先は、表4cのように、個人の事情に応じた先に移動しているが、実家と兄弟姉妹宅に身を寄せた者が非常に多い。なお、調査時点では、仮設住宅に住む回答者は存在しなかった。地震前の住宅と異なる住宅に住む者は、18人(11%)存在し、そのうち新しい住宅に入居した者を除くと、12人がまだ避難している。

4. 生活困難(不足したこと・困ったこと)―被災当時と調査時点における―

回答者の記入内容を類別、カテゴリー化し、それに従って整理した。

(1) 被災当時、最も不足していたこと・困ったこと

兵庫と大阪では、状況は全く異なる(表5a)。被害の大きかった兵庫の2地域では、水に関することが最も多い。「飲料水の不足」も大きい、「トイレの水」

に最も困ったという記述が非常に多くみられた。さらに、洗濯、手を洗う、洗面、料理等々の生活用水の不足が大きかった。「水の運搬」は、給水車からポリタンク等で運搬する大変さであり、エレベーターの停止した集合住宅では、とりわけ大変な作業であったことや、高齢者の回答に、腰痛や肉体的疲労の原因になったという記述が何ケースも見られた。腰痛などは2次災害といえる。暖房、料理、入浴に困ったことは、すべてライフラインの不通による。

「情報の不足」も大きく、詳しい内容は後述するが、電話が繋がらず、親族や知人の安否がわからなかったこと、テレビやラジオを使えなく何処でどの位の規模で起こったのかという情報が得られなかったこと、その後は、給水場所はどこか、給水車はいつ来るのかといったその居住地レベルの生活情報が極めて不足していたことである。さらに、「テレビ、ラジオは当事者向けでない情報ばかりで、その地域の被災者が必要とした情報が得られなかった」などの記述が多く見られ、被災者自身にとって本当に必要な情報が得られなかったことが大きな問題であった。

表4. 住宅の移動状況

表4a. 住宅移動の有無

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市	不明	計(%)
1. あり	27(49.1)	6(20.7)	0	1(3.6)	0	34(21.5)
2. なし	27(49.1)	21(72.4)	36(90.0)	23(82.1)	0	107(67.7)
3. その他*	1(1.8)	0	0	0	0	1(0.7)
4. 不明	0	2(6.9)	4(10.0)	4(14.3)	6(100.0)	16(10.1)
計(%)	55(100.0)	29(100.0)	40(100.0)	28(100.0)	6(100.0)	158(100.0)

*転動による移動

表4b. 住宅の移動回数—移動ありについて

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市	計(%)
1. 1回	4(14.8)	2(20.7)	-	1	7(20.6)
2. 2回	11(40.7)	3(32.4)	-	0	14(41.2)
3. 3回	8(29.6)	0	-	0	8(23.5)
4. 4回	2(7.4)	0	-	0	2(5.9)
5. 5回	2(7.4)	0	-	0	2(5.9)
6. 不明	0	1(6.9)	-	0	1(2.9)
計(%)	27(100.0)	6(100.0)	-	1	34(100.0)

表4c. 住宅の移動先—移動ありについて

1. 遊離施設	4(11.8)
2. 実家	11(32.4)
3. 兄弟姉妹宅	8(23.5)
4. 親戚宅	2(5.9)
5. 知人宅	2(5.9)
6. 社宅・寮など	1(2.9)
7. ホテル・旅館など	3(8.8)
8. 借家	5(14.7)
9. 病院	2(5.9)
10. その他*	6(17.6)
計(%)	34(100.0)

*もう一つの自宅 (複数回答)
大学、新居購入etc.

表5b. 被災当時、他に不足したこと・困ったこと

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市
1. 水	15(27.3)	5(17.2)	0	0
2. 電気	1(1.8)	1(3.4)	0	0
3. ガス	7(12.7)	5(17.2)	0	0
4. 入浴	9(16.4)	2(6.9)	0	0
5. 電話	10(18.2)	5(17.2)	5(12.5)	2(7.1)
6. 情報	7(12.7)	2(6.9)	0	0
7. 食料	7(12.7)	7(24.1)	4(10.0)	1(3.6)
8. 日用品*	5(9.1)	2(6.9)	1(2.5)	0
9. 物の壊れ	3(5.5)	0	1(2.5)	0
10. 建物の安全性	1(1.8)	0	0	0
11. 交通	11(20.0)	8(27.6)	0	1(3.6)
12. 生活環境*	3(5.5)	0	0	0
13. 病院	2(3.6)	0	0	0
14. 精神的疲労、心配、不安	2(3.6)	2(6.9)	2(5.0)	1(3.6)
15. 肉体的疲労	1(1.8)	0	0	0
16. その他*	9(16.4)	5(17.2)	3(7.5)	1(3.6)
17. 特になし	3(5.5)	1(3.4)	9(22.5)	10(35.7)
無回答	8(14.5)	2(6.9)	18(45.0)	12(42.9)
計(%)	55(100.0)	29(100.0)	40(100.0)	28(100.0)

8) ◆ウェットティッシュ、◆生理用品、◆自転車、◆薬、 [複数回答]
 ◆ビニルシート、◆乾電池、◆ガスボンベ、◆家電製品、◆情報機器。
 12) ◆ゴミ回収、◆ガラスなどの危険物の処理、◆家庭解体の塊。
 16) ◆病気の悪化、◆熱い飲物や食物、◆家財の保管場所、◆銀行が閉まり現金化に困る、◆エレベーターが止まり8階までの階段生活、◆片付け(2)、◆家の修理の人手不足、etc.

他に多く書かれていたのは、「食料の不足」「日用品の不足」「交通機関の不通」である。

大阪の2地域では、特に困ったことがなかった者が存在する。困った内容は「電話が通じなかったこと」「情報の不足」「食料・日用品の品切れ」「交通機関の

表5. 生活困難(不足したこと・困ったこと)—被災時と調査時点における

表5a. 被災当時、最も不足したこと・困ったこと

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市
1. 飲料水	29(52.7)	14(48.3)	1(2.5)	1(3.6)
2. トイレの水	34(61.8)	15(51.7)	2(5.0)	2(7.1)
3. 洗濯用水	26(47.3)	9(31.0)	0	1(3.6)
4. 水—その他*	2(3.6)	1(3.4)	1(2.5)	1(3.6)
5. 水の運搬	27(49.1)	9(31.0)	0	1(3.6)
6. 電気—暖房	8(14.5)	4(13.8)	0	0
7. 電気—その他*	4(7.3)	2(6.9)	0	1(3.6)
8. ガス*	13(23.6)	9(31.0)	0	0
9. 入浴	4(7.3)	3(10.3)	0	0
10. 電話	9(16.4)	8(27.6)	14(35.0)	7(25.0)
11. 情報	13(23.6)	6(20.7)	6(15.0)	6(21.4)
12. 食料	9(16.4)	3(10.3)	1(2.5)	0
13. 衣料**	1(1.8)	2(6.9)	0	0
14. 日用品*	7(12.7)	2(6.9)	0	0
15. 一時的に食料、日用品が品切れ	0	0	4(10.0)	3(10.7)
16. 物の壊れ	2(3.6)	1(3.4)	0	0
17. 交通—交通機関不通・道路寸断	7(12.7)	4(13.8)	5(12.5)	0
18. 生活環境*	3(5.5)	0	0	0
19. 建物の安全性の不安	1(1.8)	1(3.4)	1(2.5)	0
20. 精神的不安、心配、恐怖*	2(3.6)	1(3.4)	1(2.5)	0
21. その他*	8(14.5)	1(3.4)	1(2.5)	0
22. 特になし	0	0	9(22.5)	8(28.6)
無回答	2(3.6)	0	4(10.0)	4(14.3)
計(%)	55(100.0)	29(100.0)	40(100.0)	28(100.0)

4) ◆食事作れず、◆手洗いでできず、◆洗面できず、◆濁った水、etc. (複数回答)
 7) ◆TVから情報入らず、◆ガス・石油で動くものでも電気がないと作動せず、etc.
 10) ◆電話不通、◆公衆電話しか使えない、◆テレホンカード、10円玉がない、
 14) ◆乾電池(5)、◆カセットコンロ、◆ガスボンベ、◆電気コンロ、
 16) ◆TVが壊れ情報入らず、◆タンスが壊れ中のもの取り出せず、etc.
 18) ◆ゴミの土埃、◆車の不法駐車、◆路上の倒壊家屋、
 20) ◆安否の心配(2)、◆復旧の目処たらず、◆小さな子供をかかえ余計な心配、◆余震の恐怖
 21) ◆救助するのに必要な道具がない、◆怪我人を助ける道具、薬、場所がない、◆避難所のプライバシーがない、◆片付け、etc.
 **: ガスと記入のあったもの(料理、暖房、入浴等)ができないことを意味する。
 **: 災害時を想定した衣服や靴を用意していなかったという回答を含む。

表5c. 現在、生活全般の中で不足している・困っている・気掛かりなこと

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市
1. ライフライン復旧の遅れ*	4(7.3)	0	0	0
2. 物の壊れによる生活支障*	4(7.3)	1(3.4)	1(2.5)	1(3.6)
3. 建物の安全性が心配*	6(10.9)	2(6.9)	3(7.5)	1(3.6)
4. 家の修理費用*	12(21.8)	2(6.9)	3(7.5)	0
5. *修理時期の見通し*	9(16.4)	5(17.2)	6(15.0)	1(3.6)
6. 家の中の片付け*	2(3.6)	3(10.3)	0	0
7. 家の再建計画*—費用含む	3(5.5)	0	0	0
8. 家の再建—区画整理のこと	2(3.6)	0	0	0
9. *—近隣との関係	3(5.5)	0	0	0
10. 交通*	12(21.8)	10(34.5)	1(2.5)	0
11. 生活環境—騒音	0	1(3.4)	0	0
12. *—粉塵	4(7.3)	1(3.4)	0	0
13. *—治安、安全性	2(3.6)	0	0	0
14. *—ゴミ	2(3.6)	1(3.4)	0	0
15. *—その他	3(5.5)	1(3.4)	0	1(3.6)
16. 精神的疲労・不安・恐怖*	6(10.9)	1(3.4)	3(7.5)	3(10.7)
17. 肉体的疲労・病気	2(3.6)	0	0	0
18. その他*	6(10.9)	2(6.9)	4(10.0)	1(3.6)
19. 特になし	7(12.7)	5(17.2)	15(37.5)	8(28.6)
無回答	5(9.1)	3(10.3)	8(20.0)	11(39.3)
計(%)	55(100.0)	29(100.0)	40(100.0)	28(100.0)

1) ◆4月になってもガス不通、◆4月2日までガス不通、 [複数回答]
 ◆4月1日現在ガス不通、◆水漏れのため水道不通。
 2) ◆屋内の破損箇所の復旧(水道栓など)、◆家電製品が故障で不自由な生活、◆食器が大部分割れたため皿が足りず、◆エレベーターが停止(2)、etc.
 3) ◆余震があると大丈夫か心配、◆見えていない部分の損壊、◆住宅の応急処置をしたが梅雨が心配、◆撤去していない住宅がいつ倒壊するか不安、etc.
 4) ◆修理にかかる費用が全く不明、◆マンションで共用部分の修理代が大変、◆修理費の見積もりがいろいろ加減、etc.
 5) ◆修理時期が不明(業者は下見済みだが、職人不足、もの不足のため)、◆家具の撤去や壁の修理が人手不足でできず、◆復旧に日数がかかる、◆修理に来てくれない、etc.
 6) ◆片付けに時間がかかる、◆部屋がまだ片づいていない、etc.
 7) ◆家の解体が進まず次の段取りができない、◆銀行ローンが滞り残っている、◆家の解体費用を自治体が全額だせない、◆土地問題(借地)、◆住宅の補修をどのようにしたらよいか、etc.
 10) ◆交通網の寸断により時間がかかる、費用がかかる、◆渋滞、◆乗継ぎ場が遠く通勤に時間がかかる、◆電車の中が混雑、etc.
 16) ◆余震のこと(7)—大阪に記入多い、◆再度の大地震、◆仕事の遅れ(2)、◆地震以前の仕事の記憶が薄い、◆他所に避難している家族の精神不安が心配、◆子供の学校、保育所の環境(仮設校舎、避難所になっている)、◆家具固定のノウハウや道具がない、◆家具、家電製品の買い換え資金、◆仮設住宅への入居、◆被災した友人、学生のこと、etc.

阪神・淡路大震災レポート

表6. 不足した情報

度数 ①とくになし(無回答) ②(無回答の比率)		情報 の タイ プ 状況定義情報 (含むコソリ-情報)		生活情報 行動指示情報	
		N		N	
兵 5 5		・ライフラインの復旧見込み	6	・水の供給	1 1
庫 ① 1 0		・どこで何が起きたのか	4	・自宅関連の水道・ガスの復旧	8
A ② (18.2%)		・知人等の安否	3	・交通情報	8
		・震災の全体情報と地域情報	4	・どこで何が買えるか	3
		・避難場所はどこか、そこに誰が		・行動指示(今何をすればよい)	2
		いるか		・風呂・コインランドリー	2
		・どこで誰が困っているか		・トイレ	2
		・救援がいつ来るか(生き埋めの		・市バスの運行状況	
		人を助ける)		・病院	
		・余震の予知情報(?)		・住宅	
		・避難勧告がいつ解除されるか		・職場	
		・まちづくりの規制			
		・火災			
兵 2 9		・知人等の安否	4	・交通情報(通行可能箇所)	5
庫 ① 6		・ライフラインの復旧見込	3	・水の供給	4
B ② (20.7%)		・ひとひ地域以外の被災情報		・お風呂	2
				・燃料の入手先	2
				・食料の入手先	
				・生活情報一般	
				・わが家関連のライフラインの復旧	
				・電話の回復見込み	
兵庫小計	8 4	①1 6 ② (19.0%)			
大 4 0		・近隣地域のこと	3	・身近な交通情報	5
阪 ① 2 3		・知人等の安否	2	・どうすればよい(行動指示)	
府 ② (57.5%)		・ライフラインの復旧	2	・電話の回復	
下		・余震		・自宅被害への対応方法	
		・火災			
		・活断層の位置			
		・被災地の一般居住者の状態			
		・神戸の人々の安否			
		・避難場所の詳細情報			
大 2 8		・知人等の安否	3	・交通情報	
阪 ① 1 6		・市内の震災の程度		・公立学校の登・休校措置	
市 ② (57.1%)		・長田・東灘以外の地域の情報			
		・被災場所・程度に関する正確な情報			
		・災害の全体状況			
		・どこで何が盛まっているか			
				(災対本部に電話がかからない)	
				(避難所の学生と連絡が取れない)	
大阪小計	6 8	①3 9 ②(57.4%)			
全体計	1 5 2	①5 5 ②(36.2%)			

*震災時の住所の記述のあったものを整理。

*表側の兵庫・大阪の2分類は、図1を参照のこと。

*N未記入は、すべて1。

不通(大阪府下)」に集中している。

(2) 他に不足していたこと・困ったこと

表5bのようであり、表5aの最も困ったことを合算すると、回答者の被災当時の、不足したもの・困ったことの全体の様子がわかる。

(3) 現在(調査時点)における、不足していること・困っていること・気掛かりなこと(表5c)

兵庫の2地域では、回答者の7~8割に記入が見られる。交通機関のことが、2~3か月たつと浮上してきている。さらに、家の修理(時期、費用)、家の安全性などの住宅に関わることと、区画整理、住宅再建に伴う近隣との関わり、粉塵やゴミ等の生活環境のことが出てきている。

また、精神的疲労がいずれの地域においても浮上し、地震後2~3か月時点における特徴である。

大阪では、「特になし」「無回答」が6~7割であり、震災後2,3か月後には、かなり平常時にもどって

表7. 聞いたことのある流言

度数	流言は聞かなかった	流言	内容
度 数	余震関連	余震以外	
兵 5 5	2 8 (50.9%)		・当日震度6がまたくる ・火災の多くは放火だ ・火事、盗人 ・2年間家を建ててはいけない
庫 A			・何月何日に大きな地震 ・1ヵ月後に大きな地震 ・これ以上の余震 ・1週間以内に ・1月31日に大きな余震 ・10日目に大きな余震 ・再震
兵 2 9	1 5 (51.7%)		・満月の夜に大地震がくる ・明日後かに大きな余震 ・震度6の余震 ・(漠然と)大きな余震(2) ・1ヵ月以内に大きな余震 ・1月26日に震度6がくると大阪の主婦 ・活断層の所在の間では本気で恐れられていた
庫 B			・明石大橋が地震の原因(2) ・多くの犠牲者を出した地域に 亡霊が出るので慰霊祭をした ・〇〇まで火災が来ている ・大学の寮が燃えている ・放火 ・木造の家はためだ ・A社の建物に被害が多い ・食料がなくなる
兵庫小計	8 4	4 3 (51.2%)	
大 4 0	2 6 (65.0%)		・10日後にまた ・「何日何時何分に震度6」を聞いた主 ・婦が非常食を買いにスーパーに殺到 ・大きな余震が必ずくる(2) ・〇月〇日に ・(漠然と)余震(4)
阪 府 下			・次は奈良、泉佐野に ・次は茨木、高槻に ・風水学的に次は8月23日 ・食料がなくなる
大 2 8	1 8 (64.3%)		・次は大阪に ・ひたくり、泥棒など物騒になる
阪 市			・10日後に同一規模の余震 ・〇日に余震(2) ・震度6の余震 ・明日大きな余震 ・1.17の地震をあてた占い師が、次は3.3に起きるといった ・(漠然と)余震(2)
大阪小計	6 8	4 4 (64.7%)	
全体計	1 5 2	8 7 (57.2%)	

*震災時の住所の記述のあったものを整理。

*兵庫・大阪の2分類は、図1参照。

*流言内容()内は同じものの数

その他

・口コミ情報も役に立った

・余震の恐れをテレビが強調したので、エレベーターが止められ、体をこわした老人がたくさんいる

・テレビで発言している地震学者の言うことが事実と異なる

ることが推察される。3~4割に記入が見られ、その内容は「精神的疲労・不安(余震の不安etc.)」と、「自宅の修理(いつ修理に来てもらえるか、費用etc.)」「自宅の安全性(内部は大丈夫か、本当に安全なのかetc.)」という住宅に関わることである。

5. 被災後、不足した情報

「震災後の生活上、とくに不足していた情報は何か」という問に対する回答分布を表6に整理した。

1. 「とくになし(無回答を含む)」という回答比率について。被害が広域に及んだ兵庫では、2割前後に留まっているが、これと対照的に大阪では、半数は情報ではさして困らなかったと感じている。

2. 情報の内容について。①状況定義に関する情報ニーズは、兵庫ではやはり被害大地区に強かった。大阪府内では「兵庫県ではなく、自分の居住している近隣地域に関する情報」ニーズが特徴と言える。

②知ること自体が主たる目的であるコンサマトリー情報(表では「知人等の安否」が典型的)は、全体に渡ってくまなく観察される。③目的達成のための手

段として利用される用具の情報は、表中の生活情報の大半が含まれるが、指摘される生活情報の種類、量ともに【兵庫 A】が目を引き、いかに不確実な生活環境に置かれたかが示唆される。なお、流言蜚語については表 7 のとおり。特徴としては以下の 2 点。① 過去の調査結果では 3 割程度だった「流言を聞かなかった」人が今回は多い。② 余震流言が多いのは過去の調査結果と同じだが、今回の場合、余震流言は「流言」かどうか疑わしい。

6. 支援状況—支援を受けた・支援をしたの両面から—

(1) 親戚・近隣・友人・職場・ボランティア

支援（受けた・した）の状況を図 4 に示した。全体を一覧すると、親戚（親、きょうだい、その他）と友人との関わりが大きいことがわかる。兵庫の 2 地域は、支援を受けた者が多く、大阪では、支援をした者が多い。大阪には、兵庫に住む親戚、知人が多いことによる。なお、図中のボランティアについて、支援をしたとあるのは、自分がボランティアに参加し支援したこ

とを意味している。

(2) 支援内容（図 5）

1) 親戚—親、子ども、きょうだい、その他

兵庫では「住まい（避難）」の支援が最も多く、さらに「精神的支援」「金銭」「食料」「物品」「事後処理（家財の片付け etc.）」「入浴」など種々の支援を受けている。支援をした内容についても同様である。大阪では、支援を受けた内容は「精神的支援」「金銭」「食料」「物品」などが主であり、支援をした内容は、図のように種々存在する。

2) 近 隣

兵庫では、とくに居住地レベルの必要な「情報」と、「食料」「飲料水」という生存に不可欠のものを近隣から得ている点が特徴的である。支援をした内容は、「救助」「生活援助（水汲み etc.）」「食料」「飲料水」「金銭」「物品」など多岐にわたっている。大阪では、「精神的支援」「金銭」「事後処理」「物品」の支援が目立つ。

3) 友 人

兵庫も大阪も同様に、「精神的支援（受けた・した）」

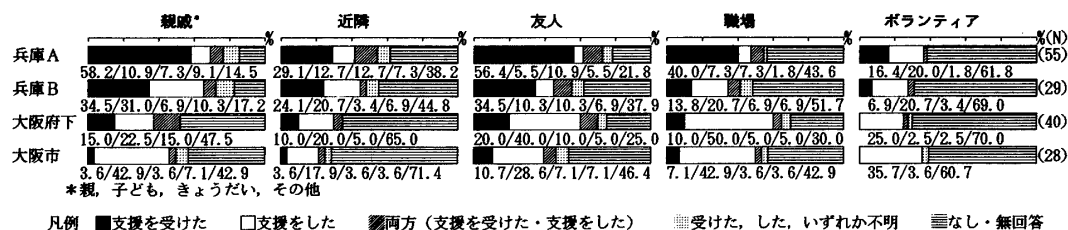
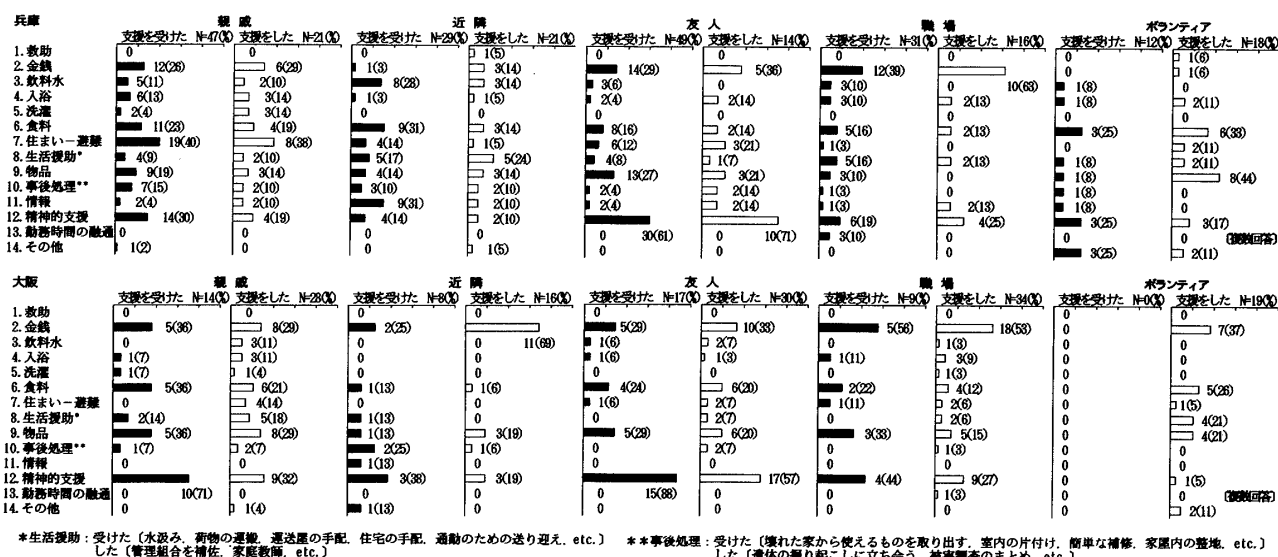


図 4. 支援状況



*生活援助：受けた（水汲み、荷物の運搬、運送屋の手配、住宅の手配、通勤のための送り迎え、etc.）
した（管理組合を補佐、家庭教師、etc.）
**事後処理：受けた（壊れた家から使えるものを取り出す、室内の片付け、簡単な補修、家屋内の整地、etc.）
した（遺体の搬り起こしに立ち会う、被害調査のまとめ、etc.）

図 5. 支援内容—親戚・近隣・友人・職場・ボランティア

阪神・淡路大震災レポート

表8. 行政の対応と支援, 行政への働きかけ

表8a. 行政の対応と支援

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市
1. 金銭・義援金	6(10.9)	1(3.4)	2(5.0)	0
2. 〃・諸費免除*	2(3.6)	2(6.9)	2(5.0)	0
3. 物資配給*	8(14.5)	0	0	0
4. サービス*	15(27.3)	6(20.7)	4(10.0)	1(3.6)
5. なし	15(27.3)	14(48.3)	14(35.0)	10(35.7)
無回答	12(21.8)	7(24.1)	19(47.5)	17(60.7)
計(%)	55(100.0)	29(100.0)	40(100.0)	28(100.0)

【複数回答】
 2) ◆医療費, 税金, 解体費免除, ◆1〜3か月分の保育料の減免.
 3) ◆食料, ◆毛布, ◆寝具.
 4) ◆給水, ◆ゴミ収集車, ◆避難所での無料電話, ◆自衛隊による家屋の解体, ◆避難勧告, ◆融資申し込みの案内, etc.

表8b. 行政への働きかけ

◆広報活動の要請, ◆地域住民の生活状況の把握, ◆義援金の支援を要請したが受け入れられなかった, ◆保育料の減免申請, ◆避難所における食事改良の要請, ◆区画整理事業への意見書提出, ◆特殊救済体制を作るにあたり意見.

が極めて大きく, 親戚よりもその比率は高いものがある。「金銭」「物品」「食料」「住まい(避難)」「事後処理」などの支援が目立つ.

4) 職 場

「金銭」の支援(受けた・した)が主であるが, 「精神的支援」「食料」「物品」「生活援助」などが一定の割合で存在する.

5) ボランティア

「食料」「物品」「精神的支援」などが目立つものである.

7. 行政からの対応・支援, 行政への働きかけ

(1) 行政からの対応・支援

行政からの対応と支援は, 表8aのように「サービス」「物資配給」「義援金」「諸費の免除」などに大別

表10. 問題点一分野別

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市
食物	8(17.4)	3(12.0)	3(11.1)	1(6.3)
被服	3(6.5)	0	1(3.7)	0
住居	5(10.9)	6(24.0)	9(33.3)	4(25.0)
生計・家計	1(2.2)	2(8.0)	1(3.7)	0
児童	0	1(4.0)	3(11.1)	0
高齢者	7(15.2)	3(12.0)	7(25.9)	4(25.0)
生活情報	10(21.7)	5(20.0)	2(7.4)	2(12.5)
行政	6(13.0)	3(12.0)	5(18.5)	3(18.8)
健康	2(4.3)	3(12.0)	2(7.4)	0
生活環境	5(10.9)	1(4.0)	3(11.1)	1(6.3)
ボランティア	7(15.2)	7(28.0)	4(14.8)	1(6.3)
避難所	4(8.7)	4(16.0)	5(18.5)	2(12.5)
水道, 電気, ガス	19(41.3)	5(20.0)	8(29.6)	3(18.8)
疎開	0	1(4.0)	3(11.1)	0
その他	6(13.0)	4(16.0)	5(18.5)	0
計(%)	46(100.0)	25(100.0)	27(100.0)	16(100.0)

<不明のぞく> (複数回答)

表9. 「非常時の備え」に関する意見

表9a. 非常時の備え—個人・家族として

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市
1. 衣*	5(9.1)	0	4(10.0)	2(7.1)
2. 水・食料の備蓄*	20(36.4)	8(27.6)	17(42.5)	12(42.9)
3. 住—風呂の水を貯める	5(9.1)	4(13.8)	3(7.5)	2(7.1)
4. 〃—モノの置き方*	13(23.6)	4(13.8)	5(12.5)	5(17.9)
5. 〃—非常時グッズの準備*	31(56.4)	11(37.9)	14(35.0)	12(42.9)
6. 〃—その他	8(14.5)	5(17.2)	1(2.5)	3(10.7)
7. 家族—集合場所など確認*	3(5.5)	4(13.8)	9(22.5)	6(21.4)
8. 〃—居場所の確認	2(3.6)	4(13.8)	5(12.5)	0
9. 〃—その他	4(7.3)	2(6.9)	4(10.0)	1(3.6)
10. その他	0	0	1(2.5)	0
無回答	7(12.7)	4(13.8)	6(15.0)	8(28.6)
計(%)	55(100.0)	29(100.0)	40(100.0)	28(100.0)

【複数回答】
 1) ◆下着, 衣類の用意, ◆衣計画を考え直す.
 2) ◆水と燃料のいらない食料, ◆缶詰, ◆レトルト, ◆保存食, ◆水と食料1日分, ◆〃 2〜3日分, ◆〃 3日分, ◆〃 1週間分.
 4) ◆モノを増やさない, ◆家具の転倒防止, ◆寝室に家具を置かない, ◆玄関まわりにモノを置かない, etc. (その1・表6参照).
 5) ◆水, 食料(缶詰, 缶切り, 保存食), ◆貴重品, ◆懐中電灯, 乾電池, ラジオ, 住所録, 現金(10円玉含), 衣(下着—揃い, 上着, ジャンパー, 厚手の靴下, 帽子, スリッパ, 活動しやすい靴, 軍手, 手袋, タオル, リュックサック), ◆その他(マスク, カイロ, 生理用品, 薬, ティッシュペーパー, ウエットティッシュ, ヘルメット, ノコギリ, ポリタンク, 電気コンロ, カセットコンロ, カセットボンベ, 戸をこじ開ける道具, 笛や鈴).
 7) ◆集合場所, 避難場所の確認, ◆とっさの行動手順の確認.

表9b. 非常時の備え—近隣・地域として

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市
1. 物の備蓄*	3(5.5)	2(6.9)	1(2.5)	1(3.6)
2. ネットワークづくり*	26(47.3)	10(34.5)	16(40.0)	11(39.3)
3. 情報・連絡網づくり*	8(14.5)	5(17.2)	5(12.5)	3(10.7)
4. 避難所の確認	7(12.7)	3(10.3)	7(17.5)	4(14.3)
5. その他*	6(10.9)	1(3.4)	2(5.0)	1(3.6)
6. なし	0	1(3.4)	0	0
無回答	14(25.5)	9(31.0)	13(32.5)	12(42.9)
計(%)	55(100.0)	29(100.0)	40(100.0)	28(100.0)

【複数回答】
 1) ◆水, 食料, 物, 土地, 資金の準備, ◆井戸を掘る, ◆備蓄倉庫の確保.
 2) ◆安否の確認や, その後の協力体制ができるようなネットワークづくり, ◆両隣を知っておく, ◆日頃の挨拶程度でも, 非常時には助けあえる.
 3) ◆近隣自治会の連絡網の設定, ◆隣近所の名前と家族構成を把握しておく, ◆高齢者, 障害者のいる家を確認, ◆非常時に備えた話し合い, ◆リーダーの必要, ◆行動訓練.
 5) ◆非常ベルの設置, ◆携帯緊急電話の設置, ◆救護体制.

表9c. 非常時の備え—市町村・県・国として

	兵庫A	兵庫B	大阪府下	大阪市
1. 物の備蓄*	4(7.3)	4(13.8)	5(12.5)	2(7.1)
2. 危機管理体制*	30(54.5)	14(48.3)	9(22.5)	5(17.9)
3. 対策・制度・規制*	13(23.6)	5(17.2)	6(15.0)	4(14.3)
4. 情報*	8(14.5)	2(6.9)	8(20.0)	2(7.1)
5. 都市計画・その他*	0	0	1(2.5)	0
6. なし	0	1(3.4)	0	0
無回答	15(27.3)	9(31.0)	21(52.5)	17(60.7)
計(%)	55(100.0)	29(100.0)	40(100.0)	28(100.0)

【複数回答】
 1) ◆水, 食料, 物品の準備, 2〜3日分の水と食料備蓄, ◆資金, 土地の準備.
 2) ◆緊急時における対応の徹底(2), ◆災害に対する考えを一本化する, ◆防災設備, 消火栓, 貯水設備の検討, ◆消防施設・組織の充実, ◆防火用水の確保, ◆ライフラインの一括整備, ◆ライフラインをまもる(2), ◆ライフラインの応急対策, ◆非常時の交通規制, ◆自然災害の予知体制.
 3) ◆行政とボランティアの分離, ◆ボランティアの確立, ◆緊急時の指令システムの見直し, ◆総合的な被災対策の立案と実施, ◆建築法規の再考, ◆活断層に住宅を建築しない.
 4) ◆災害と復旧に関する地元情報の収集, 伝達の機能確保, 通信手段への対応, ◆非常時に地域情報がわかる体制づくり(4).
 5) ◆道路網の整備, ◆道路幅を広く, ◆広場, 公園をもっとつくる(2), ◆避難所の整備, 学校以外に避難できる場所を考える, ◆安全な町づくり, ◆防災対策を住民に知らせ訓練の必要, ◆災害に対する意識の啓蒙.

表 11. 震災後の「生活の諸側面における考え方の変化」

■世界観・人生観・価値観 [54]

○自然と人間 (7)

◆自然とともに人間は生きてゆかねばならない(2). ◆自然と仲良しの人間の生活のあり方が生まれることを願う. ◆自然に対する畏敬の念が強くなる(2). ◆自然の脅威に対し人間の限界をしる. etc.

○文明と人間 (5)

◆電気や水にウエイトをかけた生活はいけない. ◆文明に頼りすぎると怖い. ◆人間の文明に疑問. ◆余りにも豊かな生活に慣れ、いざという時、生活の原点を見失っていたのに気づいたのではないかな. etc.

○人生 (13)

◆人生観かなり変わる(2). ◆欲をすててシンプルに生きたい(2). ◆簡単に生きようと思う. ◆目立たず、素朴に生きていたい. ◆より楽しく生きる. ◆人間の生死というもの、運命的であることを痛感(2). ◆人間いつ何が起るか分からないことを実感. ◆すべての面で視点が変わる. ◆無常観. etc.

○モノに対する価値観 (21)

◆モノに対する価値観が変わった(3). ◆物欲が去る(2). ◆価値観が根底から変化—モノをもつことが大切なのではない. ◆モノへのこだわり意識が薄れた(2). ◆モノにこだわらない生活をした. ◆形あるものは無くなる. ◆大切なモノもいつかは失うものという覚悟. ◆物財も生活した時間の中で金銭に換えられない価値が附加されるもので、物を便利に扱うことのみではない異なった扱いについての意義を教育の中でおさえる. etc.

○その他 (8)

◆何が大切かを改めて考えさせられる. ◆何が自分の生活にとって最も大切なということが身に沁みわたった. ◆人間の肉体的、精神的もろさとたくましさの両面を実感. 人命の尊さを痛感. etc.

■生活観・生活意識・生活態度 [43]

○シンプルな生活 (24)

◆シンプルライフを心がけたい(4). ◆生活の簡素化(8). ◆生活を簡素化し大切なものに集約する生活をしたい(3). ◆人間の生活は簡素でありたいと改めて感じる. ◆生活全般にわたってもっとスリムな生活をした. ◆簡素な生活がよいと考えた(2). ◆身の回りのものはできるだけ少量で生活(3). ◆必要なものだけに、それを大切に使用するという考え方に変わる. ◆効率、利便さによりかかる生活の仕方ではなく、モノがなくても暮らせる生活の仕方(単純な生活)を求めていきたい. ◆必要なものがあれば暮らしていける—そういう思いは崩れ、今はもとの暮らしができないことを嘆く. etc.

○ぜいたくを避ける生活・無駄のない生活 (11)

◆無駄のない生活. ◆あまりにも贅沢で無駄な生活を送っていたか反省 ◆贅沢な生活を考え直すことが大切. ◆いままですら「清貧な暮らし」を実行. ◆高価なものに対する価値観が薄れた. ◆食べ物や大切に贅沢すぎないように. etc.

○衣生活 (8)

◆シンプルが一番. ◆衣服は機能性. ◆衣料についてもう少し計画性をもって購入したい. ◆衣料を整理、最低の枚数とし、今までのものを最大限に利用する工夫. ◆衣料も収納場所を考え、増やさない心構えとなる. ◆衣料など足りているものは、あまり買わないようにしたい(2).

○住生活 (その1・表6参照)

■災害時に備える、心構えのある生活態度 [98]

○衣 (7)

◆活動しやすいことが衣服の原点. ◆就寝時にはすぐ着用できる衣類を整えておく(2). ◆バジャマ、トレーナーなど起きてすぐ行動出来るもの. ◆作業に適したジャンパーなどの用意. ◆1~2日分の下着を常備. etc.

○食 (34)

◆非常食を常備(11). ◆水と燃料を必要としない食料を常備(3). ◆1週間分(缶詰とレトルト)を常備(2). ◆食料3日分を常備(2). ◆食料最低2日分常備. 水は1ℓ2本常備. ◆水は2~3日分常備. ◆絶えず水を汲みおく(8). ◆保存食品を上手に消化していく. ◆缶詰の食料を多めに用意. etc.

○住 (46)

◆非常時の持出し袋の用意(23). ◆非常時の持出し袋の再点検. ◆トランジスタラジオ、懐中電灯、ろうそく、マッチを常備. ◆風呂の湯を貯める(5). ◆大切なものの整理. ◆どのような災害に対してもモノを増やさないように整理. 最小限の生活環境にしておく. ◆寝室には何も置かない(2). ◆モノの置場に気をつける(2). ◆停電時の対策. ◆井戸、プロ

パンの併用の準備. ◆エネルギー源の分散. ◆避難場所の確認. ◆その他(家具自体の防災対策など、その1・表6参照). etc.

○その他 (11)

◆連絡の取り方、集まり場所の確認. 避難場所の申し合わせ(5). ◆非常時の心構え(2). ◆非常時に生き延びるのは、国によってでなく、自分たちの力や身近な人々の助けによるところ大である. ◆備蓄することの大切さを感じた. ◆水の大切さを痛感. etc.

■人間関係に関する意識 [43]

○家族関係 (18)

◆家族の大切さ(7). ◆家族の絆が深まった(4). ◆家族関係が不安定な状態になる. ◆助け合いがスムーズに行われた. ◆家族との連絡マメになる. ◆親戚とのつながりを大切に. etc.

○近隣 (17)

◆近所づきあいの大切さ(2). ◆人間とおしの連帯でのりこえていく. ◆地域社会の関わりを深める. ◆家というのが建物でなく、人間とおしのつながりであるという当たり前のことを実感. ◆自治会活動を普段の生活のなかで生きた活動となるようにしておく必要がある. ◆自治会・婦人会・消防団の強化. ◆連絡体制の強化. ◆ネットワーク、非常時の体制づくり. ◆地域で防災の為に自主組織の必要性. etc.

○友人 (2)

◆友人関係が親密になる. ◆友人とのつながりの大切さ. etc.

○その他 (6)

◆人間の悲しさを感じる. ◆人間関係の大切さがわかった(2). ◆助け合いの精神. ◆人間性の信頼賛美. etc.

■住居観・住意識 [25]

○住宅の選択行動に関わる意識 (21)

・住宅構造 (18)

◆災害に強い住宅(4). ◆地震に強い構造の住宅(8). ◆耐震・耐火の構造の住宅. ◆屋根は軽いもの(5). ◆窓の多い家はだめ. ◆壁の多い家. ◆基礎のしっかりした住宅. ◆鉄骨はよい(3). ◆鉄筋コンクリートはよい(4). ◆木造はだめ(2). ◆直後、木造に不信感、今はそうでない. etc.

・住宅形式 (10)

◆マンションの問題点を改めて実感、問題の難しさ(5). ◆マンションの購入を差し控える(4). ◆戸建てはよい.

・所有形式 (9)

◆持ち家より賃貸. ◆持ち家の所有に迷い. ◆賃貸が一番気楽である. ◆借家の方がよい(3). ◆公営住宅が一番. ◆賃貸マンションでよかった(2). ◆持ち家志向を考え直す. ◆マイホームは持つ気がなくなる.

・高さ (3)

◆高層は避ける. ◆高層より、低層に住みたい(2).

・その他 (1)

◆老後暮らしやすい家

○住み方に関わる意識 (その1・表6参照)

○住宅の維持管理に関わる意識 (4)

◆常に補修が必要. ◆持ち家・借家について定期的にチェックする維持管理の制度化. ◆住宅の維持管理、計画修繕(2).

■住環境・町づくりに関する意識 [29]

◆自分の町により愛情を感じるようになる. ◆緑の大切さ、心の癒を癒してくれた. ◆密集地帯には住まない. ◆都市計画をきっちりし、道路幅を広げる. ◆町内の一部に、公園などの広場(避難場所)が必要. ◆防災地域(広場、公園)はぜひ必要. ◆地域に貯水槽. ◆広い道、公開空地. 公園など十分に備えた都市計画の重要性. ◆地震に強い町づくり ◆高齢者のための避難所のあり方、避難方法. ◆安全な町づくりを考え直す必要がある. ◆防災だけで都市づくりをするのは、地域文化の破壊になる. ◆都市へ集中しすぎ、便利ばかり追求するのは悪い. ◆見せかけだけの利便性、快適性より、本当の豊かさを追求することが大事. 生活も住宅も町づくりも. ◆確実な町づくり、コミュニティづくりが必要. ◆町づくりに住宅参加の必要性. etc.

■地震災害の再認識 [3]

◆地震の認識を新たに. ◆震災について「神戸は安全」であるとの過信. ◆関西は地震が少ないという考え方がくつがえされる.

・特になし (5) () 内の数値: 枠で囲んだその項目に関わる回答数
・無回答 (22) () 内の数値: その項目に関わる回答数

阪神・淡路大震災レポート

され、被害が甚大な地域ほど、その比率は高い。

(2) 行政への働きかけ

表8bに掲げたものが全てであり、多岐にわたる。

8. 非常時に備えて心掛けておくことよいこと

(1) 個人・家族として (表9a)

「非常時グッズの準備」「水・食料（保存食、水や熱源を必要としない）の備蓄」「モノの置き方」「家族の集合場所、避難の仕方の確認」「家族の居場所の確認」などに大別される。非常時グッズの種類は、欄外の注のように種々のものが記入されていた。備蓄量として、1日から1週間までの意見が見られたが、最も多く記入のあったのは、2～3日分である。

(2) 近隣・地域として (表9b)

「ネットワークづくり」「情報・連絡網づくり」「避難所の確認」「物の備蓄」にまとめられ、とくに、非常時に対応できるネットワーク・連絡網の重要性の提案が目立つ。

(3) 市町村・県・国として (表9c)

「危機管理体制」「対策・制度・規制」「情報」「物の備蓄」「都市計画・その他」にまとめられ、その具体的内容は、欄外に示すとおりである。

9. 生活の諸側面における問題点

専門分野に関わりなく、体験の中から問題点と考えることを尋ねた結果を表10に示した。兵庫では、ライフライン（水道・電気・ガス）を問題点にあげる者が最も多く、生活困難として最も大きかったものである。次いで生活情報、ボランティア、食物、住居、高齢者、行政が続く。大阪では、住居、ライフライン、高齢者、行政という順である。その具体的内容は割愛する。

10. 震災後の「生活諸側面における考え方の変化」

“震災前と比べて、考え方が変わったことがありますか。家族関係、家庭経済・経営・管理、食料・食生活、住宅・住環境、町づくり等のあり方、生活全般のあり方などご記入下さい。”という問いに対する記述内容を整理したものが表11である（なお、調査票末尾の自由回答欄からも関連記述を洗い出し、それらも合わせて整理）。震災後2～3か月時点までの、体験や情報をもとに、回答者自身がとくに考えたこと、感じたことが記入されていた（それ以後、またなんらか

の変化が微妙に生じていると思われる）。その内容は大きく7つにグルーピングされた。住み方に関することは、別途、質問し、その1・表6にまとめている。

大震災は、「自然や文明などと人間との関係」「人生観」「モノに対する価値観」「生活観」といった、生活の根幹に関わる考え方を揺れ動かししたことがわかる。さらに「人間関係（とくに家族関係と近隣関係）」に関する記述も目立ち、その大切さを主張するものである。

「災害時に備える、心構えのある生活」についての記入がとくに目立つ。これまで関西では、非常時のことを生活の中で考えることは殆どされていなかった。それを反映しとりわけ強い主張が見られた。家具の転倒防止策をはじめ、日常生活（衣・食・住・家族 etc.）における地震対策の重要性を指摘しておきたい。傷害の有無、生死を分けることがありうるからである。

また、「住宅の選択行動」に関わる意識、なかでも住宅構造、所有形式に関するものが目立つ。さらに「住宅の維持管理」の重要性の主張も見られた。「住環境や町づくり」に関することについて、ソフト、ハードの両面の意見が存在する。

震災後に生じた種々の情報の中で、人々の間に、誤った認識のままにおかれた情報がないか検討しておく必要がある。例えば、在来木造（軸組）の被害が多かったため、一時、木造に対する不信感が生まれた。これは、在来木造には既存不適格が多いことが主に原因し、被害が大きかったのであり、在来木造はだめといった偏見を形成しない注意が必要である。

一方で、被害の少なかったプレファブ、ツーバイフォーに対する人々の評価は、今後の住宅の選択行動に影響を与えると考える。さらに“地震に強い家”ということが、今後の住宅に対し強く意識されよう。人々の住意識が震災の影響を受け、揺れ動いた一端がこの調査からもうかがえる。

11. おわりに

都市型地震を初めて経験し、利便性、快適性を求めて構築してきたものが一挙にくずれ、ライフラインすら確保しえなかったのである。今回の地震により、自然と人間、文明と人間、モノと人間、人間と人間の諸関係を見直す必要を投げかけられた。これらの諸関係とそのあり方を、生活視点から追究することは、もともと、総合科学—家政学の目標とするところである。

（執筆分担—今井：1.～4., 6.～11. 野田：5.）